

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）  
分担研究報告書

小児の事故とその防止に関する研究

健診用事故防止プログラムの作成

主任研究者 田中 哲郎 国立公衆衛生院母子保健学部長  
研究協力者 石井 博子 国立公衆衛生院母子保健学部

**研究要旨：**昨年度、乳幼児の事故調査を実施し、14612例の症例を得ることができた。

これらの資料を分析し、健診用事故防止プログラムの作成を行った。

チェックリストは主な健診月齢に合わせた1ヵ月健診用、3～4ヵ月健診用、6ヵ月健診用、9ヵ月健診用、1歳健診用、1歳6ヵ月健診用、3歳健診用の7つとし、また、それぞれの指導ポイントを明らかにし、事故防止の指導が容易にできるようにした。

それぞれのチェック項目がその対象月齢・年齢で発生した事故に占める割合を示し、より科学的で効果の上がるものになるように留意した。

同時に場所別の安全チェックリストについて、家庭内では台所、浴室、階段、玄関、居間・子ども部屋、ベランダの6ヶ所、家庭外では公園の合計7ヶ所について作成した。

**A) 研究目的**

子どもの事故防止指導演法として、健康診査の機会を利用することが考えられて、数年前の厚生省研究班により、試案が発表され、すでに一部では利用され、その効果についても検討が行われ、有効との報告もなされている。

昨年度、全国で乳幼児の事故調査を実施し14,612例の症例を得ることができたので、これらを詳細に分析し、より科学的で効果的な安全チェックリストとその指導ポイントをまとめた。また、新しく場所別の安全チェックリストの作成を試みた。

**B) 研究方法**

昨年度、厚生省心身障害研究「乳幼児死亡の防止に関する研究班」で得られた14,612例の症例について、年齢別、場所別に分類し、新しい健診用の安全チェックリストを作成した。

**C) 結果**

**1) 健診用安全チェックリスト**

安全チェックリストは、主な健診月・年齢にあわせて1ヵ月健診用(対象0から4ヵ月まで)、3～4ヵ月健診用(対象3から6ヵ月まで)、6ヵ月健診用(対象6から9ヵ月まで)、9ヵ月健診用(対象9から12ヵ月まで)、1歳健診用(対象1歳から1歳6ヵ月まで)、1歳6ヵ月健診用(対象1歳6ヵ月から3歳まで)、3歳健診用

(対象3歳から5歳まで)の7つの安全チェックリストを作成した。

安全チェックリストは各項目に対して、「はい」「いいえ」となるように質問し、保護者に当てはまる所に印をつけてもらい、保護者の事故に対する心配りが十分でない項目を医師や保健婦などにより指導するものである。

本チェックリストは保護者の心配りが不足していると思われる項目は、右側に印がつくように工夫されており、短時間にどの項目を指導すべきかがわかるようにしてある。

また、各項目がどのような内容の事故で、対象月齢・年齢で発生した事故に対して何%を占めているかについても記載した。

**2) 各健診用チェックリストに対応する指導ポイントおよびパンフレットの作成**

各健診用のチェックリストに対応した指導ポイントおよびパンフレットの作成を行った。

各パンフレットはその月齢や年齢に多い事故を中心に4～5項目程度の事故を指導する内容とした。

**3) 場所別安全チェックリストの作成**

子どもの事故がおこりやすい場所について、安全チェックリストを作成した。

チェックリストは、家庭内では台所、浴室、階段、玄関、居間・子供部屋、(熱傷、転倒、

誤飲、転落)、ペランダの6ヶ所、家庭外では公園の合計7カ所とした。

E) 考察

チェックリストは米國小児科学会でも採用されており、保護者に子どもの事故防止を指導する方法の一つと考えられる。

特にわが国においては、健康診査の受診率が高いことより、この機会に保護者に対し子どもの事故防止について指導することは有効と思われる。

この健診を利用した事故防止の指導効果については、和歌山県の御坊保健所において少数例ではあるが検討され、効果があるとされている。

前回のチェックリストは、この月齢に多いと思われる項目について作成したが、今回は全国

調査の結果に基づいて科学的にその時期に多い事故を明らかにし作成したことより、より効果的な安全チェックリストが作成できたと思われる。また、その指導ポイントを明らかにし、誰でも容易に指導できるようにした。

場所別の安全チェックリストはわが国でははじめてであり、全国調査結果を場所別に分析して必要性の高いものをリストにあげた。

F) 結論

14,612例の事故を分析し、新しく各健診に使用可能な安全チェックリスト及び指導ポイントをまとめた。また、場所別のチェックリストを作成し、保健婦など必ずしも事故専門以外の誰にでも指導できるプログラムとした。

1カ月健診用安全チェックリスト (0~4カ月児対応)

項目	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. 赤ちゃんを家に一人置いて出かけることや、車の中に一人で乗せておくことがありますか。	いいえ	はい	基本
2. 赤ちゃんを抱いている時、自分の足元に注意していますか。	はい	いいえ	転倒 20.6%
3. 赤ちゃんを抱いている時、あわてて階段を降りることがありますか。	いいえ	はい	転落 21.1%
4. 赤ちゃんをクローハン(かご)に寝かせて持ち上げる時、両方の取っ手をしっかりと握っていますか。	はい	いいえ (使用しない)	転落 21.1%
5. 赤ちゃんを抱いて、つま先やすい場所に、角のつたテーブルや家具がありますか。	いいえ	はい	衝突 15.1%
6. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物を置いていますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の進入 11.2%
7. 赤ちゃんは煙草器具(ストープ・こたつなど)の熱が直接ふれないように寝かせていますか。	はい	いいえ	やけど 9.6%
8. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようにしてありますか。	はい	いいえ	外傷・打撲や脱臼 8.5%
9. 赤ちゃんを抱いて自動車に乗ることがありますか。	いいえ	はい (車は使用しない)	交通事故 6.2%
10. 赤ちゃんを抱いている時、ドアを勢いよく開めることがありますか。	いいえ	はい	はさむ 5.1%
11. 入浴中赤ちゃんから目を離すことがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.4%
12. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、顔を横向きにして寝かせていますか。	はい	いいえ	窒息 0.2%
13. 敷布団は硬めの物を使用していますか。	はい	いいえ	窒息 0.2%

3~4カ月健診用安全チェックリスト(3~6カ月児対応)

項目	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. ベビー用品は月齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書をよく読んでいますか。	はい	いいえ	基本
2. ベビーベットの欄はいつも上げていますか。	はい	いいえ (使用しない)	転落 32.0%
3. テーブル、ソファ等の上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか。	いいえ	はい	転落 32.0%
4. 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理したりすることがありますか。	いいえ	はい	やけど 15.1%
5. 赤ちゃんを抱いたり、おぶったりする時は、まわりにぶつかると危ない所がないか確認をしていますか。	はい	いいえ	衝突 10.8%
6. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ	誤飲 10.5%
7. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。	はい	いいえ (車は使用しない)	交通事故 10.5%
8. 赤ちゃんを抱いている時、自分の足元に注意していますか。	はい	いいえ	転倒 8.9%
9. 赤ちゃんの腕を、お兄ちゃんやお姉ちゃんが強く引っ張ることがありますか。	いいえ	はい	外傷・打撲や脱臼 8.6%
10. 赤ちゃんの指がドアに触れていないのを確認してから、開閉を行っていますか。	はい	いいえ	はさむ 2.8%
11. ベビーベットの欄とマットレスの間にすき間がありますか。	いいえ	はい (使用しない)	窒息 0.9%

## 6カ月健診用安全チェックリスト（6～9カ月児対応）

質問	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。	はい	いいえ	誤飲・異物の進入 34.5 %
2. ストープやヒーターなどは安全欄で囲って使用していますか。	はい	いいえ	やけど 20.0 %
3. ポットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。	はい	いいえ	やけど 20.0 %
4. お茶やコーヒー、味噌汁、カップラーメン等をテーブルの端に置くことがありますか。	いいえ	はい	やけど 20.0 %
5. 階段に転落防止用の欄を取り付けましたか。	はい	いいえ（階段なし）	転落 17.4 %
6. 歩行器は段差がない所で使用していますか。	はい	いいえ（使用しない）	転落 17.4 %
7. つかまり立ちをさせる時は赤ちゃんの側についていますか。	はい	いいえ	転倒 10.4 %
8. 赤ちゃんがおすわりをするそばに、角や織のするどいものがありますか。	いいえ	はい	衝突 7.2 %
9. おもちゃは安全マークを目安に選び、プラスチックの薄い突起や、とがった部分がないか確認していますか。	はい	いいえ	外傷・打撲や脱臼 4.2 %
10. ドアのちょうつがい部分に、指が入らないようにガードをしていますか。	はい	いいえ	はさむ 2.7 %
11. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。（車は使用しない）	はい	いいえ	交通事故 2.6 %
12. よだれかけのひもは外してから赤ちゃんを寝かせていますか。	はい	いいえ	窒息 0.6 %
13. 入浴中の赤ちゃんを一人にして目を離すことがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.2 %

## 1歳健診用安全チェックリスト（1～1.6歳児対応）

質問	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. 子どもが敷居や段差のあるところを歩く時は、つまづかないように注意していますか。	はい	いいえ	転倒 25.5 %
2. 階段や玄関などの段差のあるところに子どもが一人で行くことがありますか。	いいえ	はい	転落 21.5 %
3. 家具などの角のするどい部分には、クッション等のガードがしてありますか。	はい	いいえ	衝突 14.5 %
4. 熱い鍋やアイロンやは子どもの手の届かない所に置いてありますか。	はい	いいえ	やけど 12.3 %
5. タバコが入っているパックを子どものそばに置くことがありますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の進入 11.7 %
6. かみそり、包丁、はさみ等の刃物は使用したら必ず片付けていますか。	はい	いいえ	外傷・打撲や脱臼 5.5 %
7. ドアを開閉する時、子どもの手や足の位置を確認していますか。	はい	いいえ	はさむ 4.8 %
8. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。（車は使用しない）	はい	いいえ	交通事故 3.2 %
9. 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。	はい	いいえ	溺水 0.5 %
10. 子どもが一人で浴室に入れないようにドアには鍵をつけていますか。	はい	いいえ	溺水 0.5 %
11. ビニール袋やラップは子どもの手の届かない所に片づけていますか。	はい	いいえ	窒息 0.5 %

## 9カ月健診用安全チェックリスト（9～12カ月児対応）

質問	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。	はい	いいえ	誤飲・異物の進入 21.6 %
2. ボタン型電池や硬貨、ピアスなどの小物を机の上に置いてありますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の混入 21.6 %
3. 赤ちゃんがつかまり立ちをしたり、つたい歩きをする時は、そばについて見えていますか。	はい	いいえ	転倒 19.5 %
4. 階段の上下階の両側に転落防止用の欄を取り付けていますか。	はい	いいえ（階段なし）	転落 18.9 %
5. 子ども用の椅子は安定の良いものを使用していますか。	はい	いいえ	転落 18.9 %
6. ストープやヒーターなどは安全欄で囲って使用していますか。	はい	いいえ	やけど 14.9 %
7. テーブルクロスを使用していますか。	いいえ	はい	やけど 14.9 %
8. 家具などの角のするどい部分には、クッション等のガードがしてありますか。	はい	いいえ	衝突 12.3 %
9. テーブルや机の上にある食器やビン・缶などは、赤ちゃんが自由に触れないようにしてありますか。	はい	いいえ	外傷・打撲や脱臼 5.1 %
10. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテーブルは、赤ちゃんが手や指を入らないようにしてありますか。	はい	いいえ	はさむ 4.1 %
11. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。（車は使用しない）	はい	いいえ	交通事故 3.0 %
12. バケツや洗面器に水をためておくことがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.4 %
13. ビーナッツやあめ玉などは赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。	はい	いいえ	窒息 0.2 %

## 1.6歳健診用安全チェックリスト（1.6～3歳児対応）

質問	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. 子どもが遊んでいるまわりに、つまづきやすい物や段差がないか注意していますか。	はい	いいえ	転倒 29.3 %
2. 階段を上り下りする時は、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつないでいますか。	はい	いいえ	転落 19.4 %
3. 子どもの位置を確認してからドアを開けていますか。	はい	いいえ	衝突 16.5 %
4. ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて、走り回ることがありますか。	いいえ	はい	外傷・打撲や脱臼 9.2 %
5. 子どもの腕を強く引っ張ることがありますか。	いいえ	はい	外傷・打撲や脱臼 9.2 %
6. ストープやヒーターなどは安全欄で囲い、子どもが熱いものに触れないようにしてありますか。	はい	いいえ	やけど 8.2 %
7. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いてありますか。	はい	いいえ	誤飲・異物の進入 6.9 %
8. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の進入 6.9 %
9. 子どもが引き出しやドアを開け閉めして遊んでいることがありますか。	いいえ	はい	はさむ 5.2 %
10. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。（車は使用しない）	はい	いいえ	交通事故 4.4 %
11. ビーナッツやあめ玉などは子どもの手の届かない所に置いてありますか。	はい	いいえ	窒息 0.3 %
12. 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。	はい	いいえ	溺水 0.2 %
13. 子どもが浴室のドアを開けて一人で中に入ることがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.2 %

3歳健診時用安全チェックリスト（3～5歳児対応）

質問	はい	いいえ	事故全体に占める割合
1. 子どもが外遊びをする時、つまづきやすい物や段差がないか注意していますか。	はい	いいえ	転倒 31.7 %
2. 浴室の床やタイルは滑りにくいですか。	はい	いいえ	転倒 31.7 %
3. いつも子どものいる位置を確認していますか。	はい	いいえ	衝突 19.7 %
4. すべり台やブランコの安全な乗り方を教えていますか。	はい	いいえ	転落 17.6 %
5. ベランダや窓のそばに踏み台になるものがありますか。	いいえ	はい	転落 17.6 %
6. おもちゃで遊んでいる時、危険なことをしていないか確認をしていますか。	はい	いいえ	外傷・打撲 や脱臼 8.2 %
7. 車のドアを開ける時、子どもの指をはさまないか確認をしていますか。	はい	いいえ	はさむ 6.6 %
8. 自動車に乗る時は必ずチャイルドシートを使用していますか。	はい	いいえ (車は使用しない)	交通事故 6.4 %
9. 子どもに交通ルールを教えていますか。	はい	いいえ (車は使用しない)	交通事故 6.4 %
10. ストーブやヒーターなどは安全策で囲い、子どもが熱いものに触れないようにしていますか。	はい	いいえ	やけど 4.8 %
11. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いていますか。	はい	いいえ	誤飲・異物の 進入 4.5 %
12. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。	いいえ	はい	誤飲・異物の 進入 4.5 %
13. 子どもだけで川や池に遊びに行くことがありますか。	いいえ	はい	溺水 0.3 %
14. 水遊びをする時は必ず大人が付き添っていますか。	はい	いいえ	溺水 0.3 %
15. あめ・こんにやくゼリー・おもちゃ等をあげる時、のどに詰まらせないように注意していますか。	はい	いいえ	窒息 0.2 %

1カ月児健診時用安全チェックリストの指導のポイント

1. 赤ちゃんを家に一人置いて出かけることや、車の中に一人で乗せておくことがありますか。 基本

赤ちゃんが寝ている少しの間に、赤ちゃんだけを家に置いて買い物などに出かける人がみられます。出かける時は寝ていても途中で起きてしまったり、寝返りやハイハイができるようになれば、家の中を動き回るのでいろいろな危険が待ち受けています。また、火災や地震など災害の際にも一人では脱出できません。赤ちゃんは自分自身で身の安全を守ることができないので、大人が常に心がける必要があります。

また、夏に赤ちゃんを自動車の中に置いたままにしていると、脱水を起こし、時には死亡事故につながる場合があります。車内は日中短時間でも温度が驚くほど上昇し、40～50度になります。

<指導のポイント>

赤ちゃんを家に一人残して外出しない。車から降りる時は必ず赤ちゃんも一緒に降ろす。

2. 赤ちゃんを抱いている時、自分の足元に注意していますか。 転倒

今まで簡単に通っていた所でも、赤ちゃんを抱いている時は足元が見にくいので、床が滑りやすかったり、カーベットがめくれている、ちょっとした段差にもつまづいてしまいます。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にぶつけてしまうので注意が必要です。

<指導のポイント>

赤ちゃんを抱いている時は、自分の足元に注意をして行動する。

3. 赤ちゃんを抱いている時、あわてて階段を降りることがありますか。 転落

赤ちゃんを抱いている時は足元が見にくいので、階段を降りる時踏み外してしまったり、靴下やスリッパを履いていて、滑って赤ちゃんを落としてしまう事故があります。階段などの高い場所からの転落は、重症事故になりやすいので注意が肝心です。

階段のカーベットは毛足の短いものを使用し、市販のすべり止めを貼るのも手軽な安全対策です。ただし、極端に出っ張ると逆につまずく原因になってしまうので、種類や取り付けには十分注意を払うこと。

<指導のポイント>

赤ちゃんを抱いている時は、階段の上り下りを慎重に行う。階段の照明は明るくして、物を置かないようにする。滑りやすい階段の縁に

は滑り止めを貼る。

4. 赤ちゃんをクローゼット(かご)に寝かせて持ち上げる時、両方の取っ手をしっかりと握っていますか。 **転落**  
クローゼットの扱いに慣れてくると、取っ手を片方しか持っていないのに気づかず持ち上げて、赤ちゃんを落してしまったり、持ち運んでいる時取っ手が取れて寝ている赤ちゃんが転落してしまう事故があります。

<指導のポイント>

赤ちゃんをクローゼット(かご)に寝かせて持ち上げる時、必ず両方の取っ手を握っているのを確認する。

5. 赤ちゃんを抱いていて、つまずきやすい場所に、角のついたテーブルや家具がありますか。 **衝突**  
ベビーベッドに寝かせようとした時、のけぞってベッドの柵にぶつかってしまったり、ミルクをあげようとして抱きかかえた時、急に頭を後ろ屈してテーブルにぶつかったり、赤ちゃんはじっとしていません。

赤ちゃんを抱きながらつまずくと、つまずいた勢いで赤ちゃんが角の角のついたテーブルや家具にぶつかると危険です。

<指導のポイント>

角のするどい家具やテーブルはクッション等でカバーする。

6. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物を置いていますか。 **誤飲・異物の進入**  
おもちゃの部品が外れて入ったり、お兄ちゃんお姉ちゃんが赤ちゃんの口にタバコを入れてしまったり、石鹸をなめてみたりと赤ちゃんはなんでも口に入れたがりますが、赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。

<指導のポイント>

部屋の中の小物を整理整頓しておく。タバコや灰皿は赤ちゃんの手の届かないところに置く。自宅だけではなく、実家やよその家に外出した時にも注意する。

7. 赤ちゃんは暖房器具(ストーブ、こたつなど)の熱が直接ふれないように寝かせていますか。 **やけど**  
冬は暖房器具によるやけどが多くなります。体温より少し高いくらいの温度でも、長時間あてたままにすると低温やけどをおこすことがあります。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重傷な熱傷になる危険があります。

<指導のポイント>

赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせる。こたつや電気カーペットに長時間寝かさない。

8. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようにしてありますか。 **外傷・打撲や脱臼**  
赤ちゃんの上に、テーブルの上の哺乳ビンが倒れてきたり、タンスの上の箱が落ちてきたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいるおもちゃが落ちてきたり。上から落ちてきた物が赤ちゃんにあたり、外傷や打撲を負ってしまう事故があります。

<指導のポイント>

寝ている赤ちゃんの上には、物が落ちてこないようにする。

9. 赤ちゃんを抱いて自動車に乗ることがありますか。 **交通事故**  
生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱きかかえて自動車に乗せるのは危険です。抱いていても車が衝突したり、急に止まると、乳幼児は腕から飛び出し衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。

<指導のポイント>

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選ぶ。

10. 赤ちゃんを抱いている時、ドアを勢いよく閉めることがありますか。 **はさむ**  
赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまいます。ドアのすき間に指が入っているのを知らずに勢いよく閉めたり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まって指がはさまれてしまう事故があります。

<指導のポイント>

ドアを開閉する時は、赤ちゃんの手の位置を確認する。ドアを開けておく時は、風などで急に閉まらないようにドアクローザー、ドアストッパーなどで固定する。

11. 入浴中の赤ちゃんから目を離すことがありますか。 **溺水**  
オムツを取り替えたり、授乳をしたりでお母さんは睡眠不足です。赤ちゃんと一緒に風呂に入ろうとしたら寝をしてしまい、赤ちゃんが湯船に沈んでしまったり、うつぶせにして体を洗っていたら、顔がお湯について溺れてしまうなどの事故が起きています。

<指導のポイント>

入浴中の赤ちゃんから目を離さない。入浴中の赤ちゃんを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たりしない。

12. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、顔を横向きにして寝かせていますか。 **窒息**  
母乳やミルクを飲んだ後は、排気が十分でないと授乳をもどしてしまい、口の中に吐物が残っていると窒息事故につながります。吐いたものがのどや気管につまらないように、顔を横向きにして寝かせ、寝かせてから10分～15分は気をつけて見ているようにします。

<指導のポイント>

母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、顔を横向きにして寝かせる。口の中に吐物がないか確認をする。

13. 敷布団は寝るの物を使用していますか。 **窒息**  
敷布団は柔らかすぎると赤ちゃんの顔が埋まってしまい、鼻や口がふさがれてしまいます。掛布団やタオルなどが顔に深くかかってないか、

寝ている間でも時々様子を見るようにします。

<指導のポイント>

敷布団は硬めの物を使用し、うつぶせ寝にならないように気をつける。掛布団は顔に深くかけすぎない。顔の側にタオルやガーゼは置いておかない。

3～4カ月児健診用安全チェックリストの指導のポイント

1. ベビー用品は月齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書を良く読んでいますか。

基本

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準にあっているとは限りません。Sマーク・SGマーク・STマーク等安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起ります。使い方の表示や注意書きは大切で、説明書を良く読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用します。

<指導のポイント>

取扱説明書や使用上の注意を良く読み、きちんと守って使用する。ベビーベッド、子ども用の椅子、ベビーサークル、衣類等はザインだけではなく、安全性や耐久性にも目を配る。

2. ベビーベッドの柵はいつも上げていますか。

転落

まだ動けないから大丈夫と思って、ベッドの柵を下げたまミルクを作りに行ったり、オムツを取り替えに行ったり赤ちゃんからちょっと目を離したすきに転落事故は起こっています。

<指導のポイント>

ベビーベッドに寝かせる時は、必ず柵を上げる。

3. テーブル、ソファなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか。

転落

3カ月ぐらいの子どもでも頭のほうへずりあがったり、5カ月を過ぎると早い赤ちゃんは寝返りが打てるようになるので、テーブル・ソファなど段差のあるところに赤ちゃんを寝かせる時は、目を離すことができません。

<指導のポイント>

テーブル・ソファなどの高いところに寝かさな。子どもは動くものだとすることを忘れずに。

4. 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲みものを食べたり飲んだり、料理したりすることがありますか。

やけど

3～5カ月にかけて赤ちゃんはこぶしをふるったり、物をつかんだりができるようになります。大人の持っている熱い食べ物、飲み物にも手を伸ばそうとするので、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを扱うことは危険です。また、抱いている赤ちゃんが動いたり、動かなくても誤ってカップが手から滑り落ちたりしないとは限りません。赤ちゃんの皮膚は成人に比べて薄く、洋服の上からでも容易に深度の深いやけどになってしまいます。

<指導のポイント>

赤ちゃんを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり運んだりしない。

5. 赤ちゃんを抱いたりおぶったりする時は、まわりにはぶつかると危ないところがないか確認をしていますか。

衝突

赤ちゃんをおぶって車に乗り込む時、頭を入り口にはぶつけてしまったり、抱っこして立ち上がろうとして机にはぶつけてしまう事故が、赤ちゃんばかり気にかけていて周りを見ないで行動したに起こっています。

<指導のポイント>

赤ちゃんを抱いたりおぶったりする時は、まわりにはぶつかると危ないところがないか、安全を確認してから行動する。

角のするどい家具やテーブルはクッション等でカバーする。

6. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。

振動・異物の侵入

腹はいになり、好きなおもちゃをつかんで遊べるようになった赤ちゃん。手を口を持っていき、なんでも口の中に入れようとします。タバコは2センチ以上飲み込むと、時に命にかかわるといわれます。口に入れると危険なタバコが赤ちゃんの手に届く場所がないか、いつも気をつけておく必要があります。

<指導のポイント>

タバコや灰皿は手の届かないところに置く。ジュースの缶を灰皿がわりにしない。

7. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取りつけて使用していますか。

交通事故

赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにはぶつけて、事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバックつきの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバックが作動すると押しつぶされるので危険です。

<指導のポイント>

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

8. 赤ちゃんを抱いている時、自分の足元に注意していますか。

転倒

今まで簡単に通れていた所でも、赤ちゃんを抱いている時は足元が見にくいので、床が滑りやすかったり、カーペットがめくれれていたり、ちょっとした段差にもつまずいてしまいます。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にはぶつけてしまうので注意が必要です。

<指導のポイント>

赤ちゃんを抱いている時は、自分の足元に十分注意を払う。

9. 赤ちゃんの腕をお兄ちゃんやお姉ちゃんが強く引っ張ることがありますか。 **外傷・打撲や脱臼**
- 赤ちゃんの体は完全にできあがっていないので、ちょっと腕をひっぱった程度でも脱臼をしてしまうことがあります。脱臼は癖になりやすいので、赤ちゃんの腕を引く時は、急に引っ張ったり、強くなり過ぎないように普段から注意が必要です。

<指導のポイント>

赤ちゃんの腕を引く時は強くなり過ぎないようにする。

10. 赤ちゃんの指がドアに触れていないのを確認してから開閉を行っていますか。 **はさむ**
- 赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまいます。赤ちゃんをおんぶしている時に、赤ちゃんがドアをいたずらしているのに気づかずドアを開けてしまったり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まって赤ちゃんの手がはさまれてしまう事故があります。

<指導のポイント>

ドアの開閉をする時は、赤ちゃんの手的位置を確認する。 ドアを開け放すときは、風などで急に閉まらないようにドアクローザー、ドアストッパーなどで固定する。

11. ベビーベッドの柵と敷布団の間にすき間がありますか。 **窒息**
- ベビーベッドの柵と敷布団の間に、赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、顔がはさまって動けなくなり、窒息する危険があります。すき間ができてしまう場合には使用をやめるか、タオルなどはさみすき間をなくして使用します。

<指導のポイント>

ベビーベッドはベッドの柵と敷布団の間にすき間がないようにして使用する。

6カ月児健診用安全チェックリストの指導のポイント

1. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。 **誤飲・異物の進入**
- 手の届くところにあるものがつかめるようになるこの時期、特に誤飲事故が多くなります。赤ちゃんは大人が口にくわえるタバコに興味深々で、テーブルの上に置いておくのは危険です。また、液体に溶けたニコチンは吸収が早く、ひと口飲んだだけでも危険なので、飲み残しのジュースの缶を灰皿がわりに使うのはやめます。

<指導のポイント>

タバコや灰皿は手の届かないところに置く。 ジュースの缶を灰皿がわりにしない。

2. ストープやヒーターなどは安全柵で囲って使用していますか。 **やけど**
- 周囲にあるものに対して関心が強くなり始め、ヒーターの出口に指を付けたり、ストーブの近くに寝かせて寝返りをして手があたりたり、特に冬は暖房器具によるやけどが多くなります。最近のストーブ、ファンヒーターなど直接熱源が出ているものが少なくなってきていますが、熱源が直接出ているものは必ず安全柵で囲い、直接子どもが触れられないようにします。

<指導のポイント>

床に置くストーブやヒーターは必ず安全柵で囲う。 ストーブの上にやかんは置かない。

3. ポットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。 **やけど**
- 赤ちゃんはハイハイができるようになると、床やタタミの上に置いてあるポットにつかまり立ちをして、ひっくり返してお湯をこぼしたり、炊飯器の蒸気の噴出し口に、手や顔を近づけてやけどをしてしまうケースが多くなります。

<指導のポイント>

ポットや炊飯器は手の届かない所に置く。 ポットにはロックをかけて赤ちゃんがボタンを押してもお湯が出ないようにしておく。 余分なコードは巻き取っておく。

4. お茶やコーヒー、味噌汁、カップラーメン等をテーブルの端に置くことがありますか。 **やけど**
- 赤ちゃんは何でもつかめるようになると、熱いものにも平気で手をかけてしまいます。お母さんが食事の準備中、赤ちゃんがテーブルクロスや電気コードを引っ張って、テーブルの上のコーヒーやカップラーメンをひっくり返し、やけどをしてしまったり、食事の時も赤ちゃんの手の届くところに熱いものは置かないようにします。

<指導のポイント>

熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置く。 テーブルクロスは使用しない。

5. 階段に転落防止用の柵を取り付けましたか。 **転落**
- ハイハイが始まると探索行動が活発になり、階段や段差があるところでは目が離せません。ちょっと目を離したスキに階段を上り下りできないよう、階段の上下に柵をつけることで転落事故の大部分は防げます。

<指導のポイント>

購入時は安全基準に合った認定マーク（SGマーク）を目安に。 柵は階段の上と下（1階部分と2階部分）の両側2カ所に取り付け、閉め忘れないようにする。

6. 歩行器は段差がない所で使用していますか。 **転落**
- 段差や階段があるところで、歩行器に乗っていて落ちてしまったり、ベビーカーやショッピングカートからいきなり立ち上がって転落してし

もう事故があります。

<指導のポイント>

歩行器は段差のないところで使用する。ベビーカー乗る時は必ずベルトを着用する。

7. つかまり立ちをさせる時は、赤ちゃんの顔についていますか。 転倒

テーブルや椅子につかまり立ちができるようになって、まだまだ大人が側についていないと不安定です。バランスを崩して転倒し、テーブルの角で顔や口を打撲したり切傷したりしてしまいます。

<指導のポイント>

角のするどい家具やテーブルは安全グッズでカバーする。

8. 赤ちゃんがおすわりをするそばに、角や縁のするどいものがありますか。 衝突

赤ちゃんは頭が重く、おすわりをさせていてもバランスを崩して、前のめりをしたり、後ろに倒れたりするので、近くに敷居や家具があるとぶつかってしまいます。

<指導のポイント>

赤ちゃんが座るまわりに角や縁のするどいものを置かない。かたい積み木などのおもちゃにも注意する。

9. おもちゃは安全マークを目安に選び、プラスチックの薄い突起やとがった部分がないか確認していますか。 外傷・打撲や脱臼

子どもの生活におもちゃは欠かせません。最近は種類も豊富になり、安全性にも配慮がなされていますが、おもちゃが原因でさまざまな事故が起こっています。安全だと思っていても、子どもは大人が思いもつかないような遊び方をします。遊んでいるうちにおもちゃが壊れ、口の中を切ってしまうので、熱中している時も時々確認するのが大人の役目です。

<指導のポイント>

おもちゃは子どもの年齢や発達にあったものを選ぶ。日本玩具協会が安全基準に合格したおもちゃに認定しているS Tマークがついていても、壊れたところがないか、プラスチックの薄い突起やとがった部分がないか確認する。

10. ドアのちょうつがい部分に、指が入らないようにガードをしていますか。 はさむ

ドアのちょうつがい側に指をはさむと大きな圧力がかかるため、指を骨折したり切断してしまうような大きな事故になりかねません。赤ちゃんの小さな手はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまうので、特に玄関などの重さのあるドアのちょうつがい部分には指が入らないようなガードして防止します。

<指導のポイント>

ドアのちょうつがい側には防止グッズでカバーをする。ドアを開閉する時は、赤ちゃんの手の位置を確認する。

ドアを開けておく時は、風などで急に閉まらないようにドアクローザー、ドアストッパーなどで固定する。

11. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。 交通事故

助手席に赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにぶつけて、事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバック付きの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバックが作動すると押しつぶされて危険です。

<指導のポイント>

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

12. よだれかけのひもははずしてから赤ちゃんを寝かせていますか。 窒息

よだれが多くなるとよだれかけは欠かせませんが、赤ちゃんは寝返りをしたり、ずり上がったりと、寝ている間も動き回ります。首周りのきつい服やよだれかけをきつくしめると、窒息をしてしまう危険があります。

<指導のポイント>

赤ちゃんを寝かせる時はよだれかけははずす。首にかけるエプロンや衣類のひも、おもちゃのひもは注意する。

13. 入浴中の赤ちゃんを一人にして目を離すことがありますか。 溺水

入浴させたり水遊びをさせている途中に、支えなしに座れるようになったばかりの赤ちゃんを一人にして、着替えを取りにいたり、電話にでたりちょっと目を離したすきに溺水事故は起きています。

<指導のポイント>

入浴中の赤ちゃんからは目を離さない。

9カ月児健診用安全チェックリストの指導のポイント

1. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いてありますか。 誤飲・異物の進入

大人が口にくわえるタバコに赤ちゃんは興味深々で、タバコの誤飲事故が多く、タバコや灰皿をテーブルの上に置いておくのは危険です。また、液体に溶けたニコチンは吸収が早く、ひと口飲んだだけでも危険なので、飲み残しのジュースの缶を灰皿がわりに使うのはやめます。

<指導のポイント>

タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置く。ジュースの缶を灰皿がわりにしない。

2. ボタン型電池や硬貨、ピアスなどの小物を机の上に置いてありますか。 誤飲・異物の進入

おもちゃを口に入れていて電池のふたが開いてボタン電池を誤飲してしまったり、赤ちゃんは何気なくテーブルの上に置いた小物をつまんで口の中に入れてしまうので、床・畳・じゅうたんやテーブルの上には口に入れると危ないものは置いておけません。



異物を飲みこんでしまった場合、普通4 8時間以内に便と一緒に排泄されますが、ボタン電池の場合は食道や胃で電気分解を起こして壊れることがあるので、すぐに医師の診断が必要です。

<指導のポイント>

ボタン電池や硬貨、ピアスなどの小物はテーブルの上に置いたままにしない。 ボタン電池を使っているおもちゃはふたがとれないか確認をする。 自分の家だけでなく、外出した時も注意をする。

3. 赤ちゃんがつかまり立ちをしたり、つたい歩きをする時は、そばについて見ていますか。 転倒

テレビやこたつにつかまり立ちをして後ろにひっくり返ったり、よちよち歩きでつまづいてテーブルにあごをぶつけたり、まだまだ大人が側についていないと不安定です。

<指導のポイント>

赤ちゃんがつかまり立ちをしたり、つたい歩きをする時は、そばについて見ている。 角のするどい家具やテーブルは安全グッズでカバーする。

4. 階段の上下階の両側に転落防止用の柵を取り付けていますか。 転落

大人の目が離れることがあっても安全なように、階段の上下階に柵をつけ、閉め忘れないようにすることで、階段からの転落事故を防ぐことができます。

<指導のポイント>

柵は階段の上と下（1階部分と2階部分）の両側2カ所に取り付け、閉め忘れないようにする。

5. 子ども用の椅子は安定の良いものを使用していますか。 転落

椅子に座っている時テーブルを足で蹴った勢いで椅子が倒れたり、椅子に自分でよじ登ったり急に立ち上がって転落する事故があります。頭が重くバランスが悪い幼児は、椅子などの高いところから落ちやすいので、子ども用の椅子を選ぶときには注意が必要です。

<指導のポイント>

幼児のからだの大きさや、SGマークを基準に、倒れにくいものを選ぶ。 ハイチェアに座らせたら必ず安全ベルトをしめ、乗り降りする時は大人が行うようにする。

6. ストープやヒーターなどは安全柵で囲って使用していますか。 やけど

冬やけどの多い季節です。ストーブの近くに寝かせて寝返りをして手があたりたり、ヒーターの出口に指を付けたり、特に暖房器具によるやけどが多くなります。最近のストーブ、ファンヒーターなど直接熱源が出ているものが少なくなってきていますが、熱源が直接出ているものは必ず安全柵で囲い、直接子どもが触れないようにします。

<指導のポイント>

床に置くストーブやヒーターは必ず安全柵で囲う。 ストーブの上にやかんは置かない。

7. テーブルクロスを使用していますか。 やけど

机にテーブルクロスをかけていると、赤ちゃんがつかまり立ちをする時に引っ張って、熱い食べ物や飲み物が置いてあるとこぼれてやけどをしてしまいます。

<指導のポイント>

テーブルクロスは使用しない。

8. 家具などの角のするどい部分には、クッション等のガードがしてありますか。 衝突

つかまり立ちや伝い歩きの赤ちゃんに転倒はつきもので、目の高さにある家具や柱の角に、頭やおでこをぶつけてしまいます。家具類はなるべく丸みのあるものを選び、角にはクッションテープ等を取り付け、ぶつかった時の衝撃を和らげる工夫をしておきます。

<指導のポイント>

家具などの角のするどい部分には、クッションテープ等でガードをしておく。

9. テーブルや棚の上にある食器やビン・缶などは、赤ちゃんが自由に触れないようにしてありますか。 外傷・打撲や脱臼

テーブルの上に置いてあるコップを落として、割れた破片を踏んでしまったり、缶詰やジャムのビンを足に落としてしまったり、手の届くところにあるものに、興味を持って触ったり、引っ張ったり、押ししたりするなどのかわりから、外傷や打撲事故がみられます。

<指導のポイント>

テーブルや棚の上にある食器や重いビン・缶などは、赤ちゃんが自由に触れないようにしておく。

10. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにしてありますか。 はさむ

テープが出たり入ったりするビデオデッキの挿入口。赤ちゃんがおもちゃを中に入れて遊んだり、つい手を入れてみたくなる所です。手を入れて抜けなくなったりしないように、カバーでおおえば手を挟む危険がふせげます。

<指導のポイント>

テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ口はカバーで覆い、開けられないようにしておく。

11. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。 交通事故

赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにぶつけて、事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバックつきの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバックが作動すると押しつぶされて危険です。

<指導のポイント>

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

12. バケツや洗面器に水をためておくことがありますか。 **溺水**  
赤ちゃんは10cm程の浅い水深でも溺れてしまいます。バケツや洗面器にたまっている浅い水を身を乗り出してのぞき込んで見ているうちに、顔がつかって溺れしまったりするので、使い終わったら必ず水を捨てておきます。水遊びをしている時は一人にしないことです。

<指導のポイント>

バケツや洗面器には水をためてかない。水槽は手の届かないところに設置する。

13. ピーナッツやあめ玉などは赤ちゃんの手の届かないところに置いていますか。 **窒息**  
赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなおもちゃなどは口の中に入ってしまうたり、食べ物が飲み込めなくて喉につかえてしまったりします。赤ちゃんの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、ピーナッツや枝豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさいでしまう大きさで、気管に入っているのに気がつかないと、肺の炎症を起こしてしまいます。

<指導のポイント>

ピーナッツは3歳を過ぎるまでは与えない。食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え、ゆっくり食べさせる。

### 1歳児健診用安全チェックリストの指導のポイント

1. 子どもが敷居や段差のあるところを歩く時は、つまずきかまいように注意していますか。 **転倒**  
歩行が少しずつ安定してきますが、まだまだちょっとした段差にもつまずき転倒します。歩き始めた子は足がもつれて床で滑ったり、敷居につまずいて頭を打つことが多く、まだまだ大人が側についていないと不安定です。

<指導のポイント>

敷居や段差のあるところは、ゆっくりと手をつないで支えて歩く。つまずきやすい敷居や段差の角は、クッションテープ等の安全グッズでカバーする。

2. 階段や玄関などの段差のあるところに子どもが一人で行くことがありますか。 **転落**  
玄関に歩いて行って転落したり、階段をよつんばいで上がってしまい転落したり。ちょっと目を離したすきに、思わぬところに移動するようになるので、転落の危険のある場所にはドアに鍵をかけたり柵をつけて、一人ではいけなくしておきます。また、テーブルやこたつ、椅等の高いところに立ち上るのを喜び、買い物カートやベビーカーから立ち上って転落する事故も起こっています。

<指導のポイント>

階段や玄関などの段差のあるところは、子どもが自由に行けないようにしておく。

3. 家具などの角のするどい部分には、クッション等のガードがしてありますか。 **衝突**  
歩きまわって転倒し、家具や柱の角に頭やおでこをぶつけてしまいます。家具類はなるべく丸みのあるものを選び、角にはクッションテープ等を取りつけ、ぶつかった時の衝撃を和らげる工夫をしておきます。

<指導のポイント>

テーブルや家具に限らず、角やふちの鋭い部分にはクッション材等でガードをしておく。

4. 熱い鍋やアイロンは子どもの手の届かないところに置いていますか。 **やけど**  
ちょっと目を離したすきに、コンロから下ろしたばかりのやかんや熱い鍋を触ってしまったり、ひっくり返してやけどをしてしまう事故が見られます。使い終わったばかりのアイロンの温度は90度です。温度を冷ます時も手の届かない所に置きます。

<指導のポイント>

熱い鍋やアイロンは子どもの手の届かないところに置く。

5. タバコが入っているバックを子どものそばに置くことがありますか。 **換気・異物の進入**  
子どもは探求心が旺盛なので、大人が物を出し入れするバックが気になります。バックの中には、小銭や化粧品、薬など誤飲事故につながる物がたくさん入っています。バックの中に入れていれば大丈夫と思って、子どもの側に置いておいたため、目を離したすきにタバコをバックの中から出して食べてしまった事故が起きています。また、公園などで外遊びをする時は、たばこの吸殻が落ちていないか確認してから遊ぶことも必要です。

<指導のポイント>

タバコはいつも子どもの手の届かない所に置く。

6. かみそり、包丁、はさみ等の刃物は使用したら必ず片付けていますか。 **外傷・打撲や脱臼**  
まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして、足の上に落としてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったり、子どもは大人が使っているものに興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとして、刃物を使用したらすぐに収納場所に片付ける習慣をつけておきます。

<指導のポイント>

かみそり、包丁、はさみ等の刃物は使用したらすぐに片付ける。ロック用品などを利用して、収納場所は簡単に開けられないようにする。

7. ドアを開閉する時、子どもの手や足の位置を確認していますか。 **はさむ**  
子どもの行動範囲が広がると、自動ドア、エレベーター、車のパワーウィンドウなど、色々な所で手や足をはさむ事故が多くなります。ドアやサッシは人が出入りする度に触れる場所でもあり、ドアを開閉するときは、指をはさまないように注意し、すき間には指を入れて遊ばないようガードを付け防止する。

<指導のポイント>

ドアを開閉する時は、子どもの手や足がどこにあるか確認する。

8. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取りつけて使用していますか。

交通事故

子どもは歩けるようになると、なかなかじっとしてられません。チャイルドシートに嫌がって座らないと、抱きかかえて乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していないくても、衝突による力は子どもを死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。一緒に後部座席でシートベルトを試したり、好きなおもちゃを持って座らせる等工夫をしてチャイルドシートに慣れさせ、必ず使用します。

<指導のポイント>

車に乗せる時は、後部座席にチャイルドシートを設置して座らせ、シートベルトをしっかり閉めておく。

9. 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。

溺水

浴槽につかまり立ちをさせていたら、よじ登って溺れてしまうことがあるので、お母さんがシャンプーをしている少しの間でも、子どもは浴槽の外にいるからといって安心できません。掃除をしようとして浴室のドアを開け放しておいたら、勝手に入って溺水していたり、浴槽のふたを開けておいたため転落し溺れていた。入浴後、浴槽のお湯は抜いておき、浴槽の蓋は入浴する直前に外します。

<指導のポイント>

入浴後、子どもが小さいうちは浴槽のお湯は抜いておく。浴槽の蓋はたわみにくく、手をついた時も横滑りしないSGマーク(Safety Goods)のついたしっかりしたものを選ぶ。

10. 子どもが一人で浴室に入れないようにドアには鍵をつけていますか。

溺水

じっとしていることが少なく、一人でもよちよち歩いていってしまうのが1歳の頃。知らないうちに浴室に入っしまい、浴槽をのぞきこんで溺れてしまった事故が起きています。浴室のドアは開けっ放しにせず、カギをかけて自由に出入りできないようにしておきます。鍵はできれば外側上部に日曜大工などで簡単に取り付けられるもので充分です。

<指導のポイント>

子どもが簡単に浴室に入れないようにドアには鍵を付ける。

11. ビニール袋やラップは子どもの手の届かない所に片付けていますか。

窒息

シールやラップをはがして遊んでいて、飲み込んで喉に詰まらせてしまったり、ビニール袋を頭からかぶっていて、鼻や口をふさいでしまったり。特にスーパーやコンビニのビニール袋には注意が必要です。また、壁に掛けてある袋やひもに首をひっかけて窒息する事故も起こっています。

<指導のポイント>

ビニール袋やラップは子どもの手の届かないところに収納する。ビニール袋をおもちゃがわりにして遊ばせない。

1. 6歳児健診用安全チェックリストの指導のポイント

1. 子どもが遊んでいるまわりに、つまずきやすい物や段差がないか注意をしていますか。

転倒

床に出してあるおもちゃや掃除機のコード、めくれあがったカーペットにつまずいたり、公園で石段につまずいて転んだり。子どもは足元を見ないで突進してくるので、ちょっとした段差にもつまずき転倒します。ある程度高さのある段差は認識できますが、ちょっとした段差は逆で危ないので注意が必要です。

<指導のポイント>

子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。部屋の中は整理整頓しておく。

2. 階段を上り下りする時は、大人がいつも子どもの下側を歩か、手をつないでいますか。

転落

階段を上り下りする時は、転んでも支えられるように子どもの下側を歩きます。最初は後ろ向きにハイハイをして下りるようにし、歩いて下りられるようになったら手を取ったり子どもの横か下側を歩きます。また、大人が目離れることがあっても安全なように階段の上下階には柵をつけ、閉め忘れないようにすることで、階段からの転落事故を防ぐことができます。

<指導のポイント>

階段の上り下りは、大人がいつも子どもの下側を歩か手をつなぐ。階段の上下には柵をつけ、閉め忘れないようにする。

3. 子どもの位置を確認してからドアを開けていますか。

衝突

開き戸を勢いよく開けたら反対側にいる子どもにぶつかったり、ドアや引き戸が透明ガラスだと閉まっているのがわからなくて突進してぶつかることがあります。シールを貼ったり、ぶつかっても飛び散らないようなフィルムを貼って防止します。

<指導のポイント>

子どもの位置を確認してからドアを開閉する。

4. ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて、走り回ることがありますか。

外傷・打撲や脱臼

口に物を入れたまま歩いたり走り歩き回っていると、壁にぶつかったり転んだ時に口の中を切ったり、喉を突いたりする危険があります。手に持っていれば、転んだ時突き刺してしまいます。

<指導のポイント>

ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえたまま走り回らせない。

5. 子どもの腕を強く引っ張ることがありますか。

外傷・打撲や脱臼

おもつを交換した後、子どもを起こそうとして腕を勢いよく引っ張ったので肩が脱臼してしまったり、転びそうになって片腕を急に引き上げ

たり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいて引っ張ったりした時に起こります。脱臼は癖になりやすいので、急に腕を引いたり、強くなり過ぎないようにするよう注意が必要です。

<指導のポイント>

子どもの腕を引く時は強くなりすぎないようにする。

6. ストープやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが熱いものに触れないようにしていますか。 やけど

食事の準備している台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。コンロから下ろしたばかりのやかんや熱い鍋に触ってしまったり、足元にいる子どもに熱いスープや油などがかかると、ひどいやけどを負わせてしまいます。

<指導のポイント>

ストープやヒーターなどは安全柵で囲い使用する。食事の準備をしている時は台所に子どもを入れないようにする。

7. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いてありますか。 誤飲・異物の進入

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。また、お母さんが使う化粧品はこのほか興味関心があり、洗面台や化粧台の上に無造作に置いておかないようにします。

<指導のポイント>

薬は手の届かないところに置き、不要になったものは捨てる。薬入れにおかしの空き缶などを使わない。

化粧品や洗剤は棚の中に保管し、扉は開けられないようにしておく。

8. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。 誤飲・異物の進入

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやおかしなどをおもしろ半分鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思はぬ事故に至ることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは、長時間そのままにしておくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。

<指導のポイント>

子どもが鼻や耳に入れる小物が側にならないよう、部屋の中は整理整頓をする。

9. 子どもが引き出しやドアを開け閉めして遊んでいることがありますか。 はさむ

家具の引き出しを開け閉めして指をはさんだり、引き出しを出してよじ登りタンスが倒れてはさまれたり。サッシのかぎの部分は子どもの背たけからいってもいたずらしたくなる所なので、簡単に開けられないようにしておきます。気密性の高いサッシにはさむと、ひどい場合は指の骨折をしてしまいます。

<指導のポイント>

引き出しやドアを開け閉めして遊ばせない。サッシの溝には消しゴムやラップの芯などはさんで防止する。

10. 自動車に乗る時、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。 交通事故

子どもはなかなかじっと座ってられません。チャイルドシートに嫌がって座らないと、抱きかかえて乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していないくても、衝突による力は子どもを死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。一緒に後部座席でシートベルトを試してみたり、好きなおもちゃを持って座せる等工夫をしてチャイルドシートに慣れさせ、必ず使用しましょう。

<指導のポイント>

車に乗せる時は、後部座席にチャイルドシートを設置して座らせ、シートベルトをしっかり閉めておく。

11. ビーナッツやあめ玉などは子どもの手の届かないところに置いてありますか。 窒息

子どもの口の大きさは最大32mmなので、これより大きなものは飲み込めません。おもちゃが口の中に入ってしまったら、食べ物が飲み込めないで喉につかえてしまったりします。子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、ピーナッツや枝豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさぐ大きさで、気管に入っているのに気がつかないと、肺の炎症を起こしてしまいます。

<指導のポイント>

ピーナッツは3歳を過ぎるまでは与えない。食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え、ゆっくり食べさせる。

12. 入浴後、浴槽のお湯は抜いていますか。 溺水

お母さんがシャンプーをしている少しの間でも、浴槽をよじ登って溺れてしまうので、子どもは浴槽の外にいるからといって安心できません。掃除をしようとして浴室のドアを開け放しておいたら、勝手に浴室に入って溺水していたり、浴槽のふたを開けておいたため転落し溺れていた。入浴後、浴槽のお湯は抜いておき、浴槽の蓋は入浴する直前に外します。

<指導のポイント>

入浴後、子どもが小さいうちは浴槽のお湯は抜いておく。浴槽の蓋はたわみにくく、手をついた時も横滑りしないSGマークのついたしっかりしたものを選ぶ。

13. 子どもが浴室のドアを開けて一人で中に入ることがありますか。 溺水

知らないうちに浴室に入っしまい、浴槽をのぞきこんで溺れてしまった事故が起きています。浴室のドアは開けっ放しにせず、カギをかけて自由に入れないようにおきましょう。

<指導のポイント>

子どもが簡単に浴室に入れないようにドアには鍵を付ける。子どもだけで浴室で遊ばせない。

### 3歳児健診用安全チェックリストの指導のポイント

#### 1. 子どもが外遊びをする時、つまずきやすい物や段差がないか注意していますか。

転倒

子どもは体のわりに頭が大きく重心が高いため、バランスを崩してよく転倒します。走っていて足がもつれたり、スクーター、三輪車に乗って石や段差で転倒したり。まだまだ上手に手を出すことができず、顔面からアスファルトやコンクリートに転倒すると重傷な事故になる場合があります。

##### <指導のポイント>

子どものまわりに、つまずきやすい物や段差がないか確認する。足のサイズにあった靴をはいて遊ぶ。

#### 2. 浴室の床やタイルは滑りにくいですか。

転倒

浴室のタイルは水や石鹸で滑りやすく、転倒すると桶や浴槽、ドアのサンで打撲したり切傷してしまいます。

##### <指導のポイント>

浴槽の床やタイルは滑りにくくしておく。

#### 3. いつも子どものいる位置を確認していますか。

衝突

ジャンプしたり、走ったり、三輪車をこいだり、お母さんがお喋りに夢中になっているわずかなすきに、子どもは思いがけないところに移動します。ソファからジャンプして飛び降りてテーブルにぶつかったり、走って遊んでいてドアや柱にあたったり、危険な遊び方を始めたら、きちんと指導しましょう。

##### <指導のポイント>

外遊びをする時は、子どもは思いがけないところに移動するので注意する。子どもの行動を良く観察し、安全に遊べる環境を作る。

#### 4. すべり台やブランコの安全な乗り方を教えていますか。

転落

すべり台で前をすべっている友達を後ろから押したり、ブランコに立ち乗りをしていて転落し、戻ってきたブランコにあたりたり。子どもは決まった遊び方で物足りずに無理なことをしようとします。安全に作られている遊具でも遊び方を誤れば事故の引き金となり、思わぬ怪我を負ってしまいます。

##### <指導のポイント>

遊具の安全な遊び方を教える。遊びのルールを決め守らせる。遊具の周りにガラスやビン、空き缶など危険なものが落ちていないか点検する。

#### 5. ベランダや窓のそばに踏み台になるものがありますか。

転落

ベランダや窓の向こう側の景色に子どもは興味深々です。子どもの好奇心をくすぐる場所であるのと合わせて、転落したときの被害の大きさも忘れてはなりません。高い階にあるベランダからの転落事故は死亡や重傷などの生命にかかわる事故につながります。

##### <指導のポイント>

ベランダにはポリ容器、ビールビンのケース、新聞の束、高さのある植木鉢など、踏み台になるものは置かない。子どもがのぞきこめる窓には安全柵をつけ、ベッドやソファ、椅子やテーブルなど子どもがはい上がれる物はそばに置かない。

危険な場所の入り口には鍵をかけておく。

#### 6. おもちゃで遊んでいる時、危険なことをしていないか確認をしていますか。

外傷・打撲や脱臼

おもちゃを持って遊具の高いところから飛び降りたり、砂場遊びのシャベルで打ちあったり、縄とびやひもをすべり台やジャングルジムにかけて遊んだり、子どもは大人が思いつかないような遊びをみつけます。子どもの遊んでいるおもちゃや遊具環境、遊び方について大人が常に確認する必要があります。子どものおもちゃの大部分は安全に設計されていますが、子どもは本来の遊び方で遊ぶとは限らないので常におもちゃの安全を点検しておきます。

##### <指導のポイント>

子どもの年齢や能力に合った遊具を選び、遊び方のルールを身につけさせる。

#### 7. 車のドアを閉める時、子どもの指をはさまないか確認をしていますか。

はさむ

車のドアを閉める時、子どもの手があるのに気付かず閉めてしまうと、車のドアは重いので柔らかい子どもの指は重傷な傷を負ってしまいます。車のドアは子どもが開けられないようにドアロックしておき、パワーウィンドウを閉める時は、窓から顔や手がでていないか確認してから行う。また、自転車に乗せていて後輪に足をはさむ事故も起こっています。

##### <指導のポイント>

車のドアを閉める時、子どもの指をはさまないか確認をする。子どもが操作できないように、ドアやパワーウィンドウはロックしておく。子どもを自転車に乗せるときは補助椅子を使い、足が巻き込まれないように、ドレスガードのついたものを選ぶ。

#### 8. 自動車に乗る時は必ずチャイルドシートを使用していますか。

交通事故

子どもはなかなかじっと座ってられません。チャイルドに嫌がって座らないと、使用しないで車に乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していなくても、衝突による力は子どもを死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。走行中、子どもに車内の装置を触らせないようにするためにもチャイルドシートに座らせ、シートベルトをしっかり閉めておく。

##### <指導のポイント>

車に乗せる時は、後部座席にチャイルドシートを設置して座らせ、シートベルトをしっかり閉めておく。走行中は子どもに車内の装置を触らせないようにする。

9. 子どもに交通ルールを教えていますか。

交通事故

信号の変わり際に横断歩道を渡って車と接触したり、ボールを追って道路に飛び出し引かれてしまったり。子どもは遊びに夢中になってしまうと、周囲に注意が払うことがなかなか上手できません。

<指導のポイント>

交通ルールを子どもに教える。道路を歩くときは手をつなぎ、大人は車道側を歩く。三輪車や自転車は車が通らないところで乗るように指導する。

10. ストープやヒーターなどは安全柵で囲い、子どもが熱いものに触れないようにしていますか。

やけど

転倒してストープに手をついてしまったり、フライパンやなべの取っ手に触れてこぼしてしまったり、食事の準備している台所も子どもにとっては危険な場所のひとつです。

<指導のポイント>

熱いものを触るとやけどをすることを教える。ストープやヒーターなどは安全柵で囲い使用する。食事の準備をしている時は子どものいる位置を把握し、コンロ上の鍋やフライパンの取っ手には触れさせない。

11. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いていますか。

誤飲・異物の進入

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。好奇心が強く、トイレ用洗剤、カビ取り剤、漂白剤など無造作に置いておくと誤飲する危険があります。誤飲の場合、吐かせていいものと悪いものがあるので、まず何を飲み込んだか落ち着いて判断することが必要です。

<指導のポイント>

薬は手の届かないところに置き、不要になったものは捨てる。薬入れにおかしの空き缶などを使わない。化粧品や洗剤は棚の中に保管し、扉は開けられないようにしておく。

12. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊んでいることがありますか。

誤飲・異物の進入

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやおかしなどをおもしろ半分て鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思はぬ事故に至ることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは、長時間そのままにしておくくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。

<指導のポイント>

子どもが鼻や耳に入れる小物が側にないよう、部屋の中は整理整頓をする

13. 子どもだけで川や池に遊びに行くことがありますか。

溺水

外で友達同士で遊ぶことが多くなるので、住まいの近くの池や川、浄化槽や防火槽など子どもが落ちる危険がある場所がないか確認しておきましょう。浅瀬でも流れがあると、バランスを崩して転ぶと簡単に立ち上りません。

<指導のポイント>

普段から川や池、水槽などに近づかないよう注意しておく。

14. 水遊びをする時は必ず大人が付き添っていますか。

溺水

水遊びは子どもを開放的な気分にさせる遊びですが、子どもはわずかな水深でも溺れしまいます。浅瀬だから、庭のビニールプールだからと安心して目を離すと大変危険です。

<指導のポイント>

水遊びをする時は必ず大人が付き添う。ビニールプールは遊んだ後は必ず水を流してふせておく。

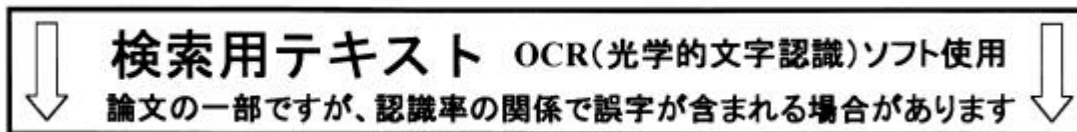
15. あめ・こんにやくゼリー・おもち等をあげる時、のどに詰まらせないように注意していますか。

窒息

あめを喉に詰まらせたり、食べ物が飲み込めないで喉につかえてしまったりします。子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、落ち着いて食べないと窒息してしまいます。

<指導のポイント>

食べ物は硬さや大きさ、口の中にと量を考え、ゆっくり食べさせる。



研究要旨:昨年度、乳幼児の事故調査を実施し、14612例の症例を得ることができた。

これらの資料を分析し、健診用事故防止プログラムの作成を行った。

チェックリストは主な健診月齢に合わせた1ヵ月健診用、3~4ヵ月健診用、6ヵ月健診用、9ヵ月健診用、1歳健診用、1歳6ヵ月健診用、3歳健診用」の7つとし、また、それぞれの指導ポイントを明らかにし、事故防止の指導が容易にできるようにした。

それぞれのチェック項目がその対象月齢・年齢で発生した事故に占める割合を示し、より科学的で効果の上がるものになるように留意した。

同時に場所別の安全チェックリストについて、家庭内では台所、浴室、階段、玄関、居間・子ども部屋、ベランダの6ヶ所、家庭外では公園の合計7ヶ所について作成した。